

✿ バーミヤーン遺跡・建造物調査

文化財研究所は2003年よりバーミヤーン遺跡保存のための調査団を派遣しており、これまでの考古遺跡調査、壁画調査に加え、2005年11月には建造物班も調査に参加しました。建造物班では今回の調査を今後の本格的な調査のための予備調査と位置付け、はじめの2日半でバーミヤーン谷及びフォラーデー谷の石窟寺院を概観するとともに、伝統的建造物の視察をおこないました。後半の2日半はバーミヤーン谷所在の約20窟の石窟寺院を巡り、その建築的要素の把握と破損状況を調査しました。

ところで、日本の木造建築と構造・構法がまったく異なる調査対象のため、不安を感じながら現地入りしましたが、伝統的建造物の視察で当地の建築技法が良く理解でき、これが石窟寺院の成形技法の解読に役立ちました。



カラと呼ばれる住居建築内部

このことは、古代の石窟成形技術が、近代以降の建築技術まで伝統として受け継がれていることを示しているように思います。

さて、石窟寺院が穿たれている岩崖は大崩壊を見せ、同崖上からは土砂が経常的に落下しています。同遺跡の保存対策が容易でないことを痛感した第1回目の現地調査でした。(文化遺産研究部 窪寺 茂)



石窟寺院が穿たれているバーミヤーン谷岩崖